

あとがき

本誌を手にとって頂き、誠にありがとうございます。
「難しいことを簡単に、簡単なことを深く、深いことを面白く…」(井上靖)と言いますが、未だ山麓青しと自覚しております。なるべく平易な表現に努めておりますが、私の至らなさについてご容赦頂けますと幸いです。
今からもう10年以上前になりますが、私が大変お世話になった校長先生が、生徒たちに「この国の憲法は国民が幸せになることを保障しているか」と全校朝会で問われました。ご存知の先生も多いかもしれませんが、答えはNOです。恥ずかしながら、私はその時、即答をすることが出来ませんでした。その後の講話では、「幸せ」ではなく、「幸せを追求する権利」が保障されていること、そして、その権利を行使できるように自己の可能性を広げる大切さについてのお話しされていましたが、その講話との出会いが、私がこれまでの授業実践や指導・支援、ひいては教師としての振る舞いを本当の意味で振り返るきっかけとなりました。

「幸せ」の意味は、一様ではありませんが、美術を学ぶことによって拓ける「幸せ」とはどのようなものか、こういった教科内容の提供が、それらを目指そうとする態度形成につながるのか。これらについての明快な答えには、今の私ではまだまだ到達できそうもありません。しかし、その問いこそが「造形」を「美術」に昇華させるのではないかと考えています。

【著者プロフィール】

花輪 大輔（北海道教育大学札幌校 准教授）
日本文教出版「中学美術（令和3年度版）」及び秀学社美術資料（北海道版）著者。

【お問い合わせ先】

hanawa.daisuke@s.hokkyodai.ac.jp
011-778-0968（研究室直通）

【表紙・本文イラスト】

松本 佳子（北海道教育大学札幌校 4年）



秀学社『美術資料』
デジタルコンテンツのご案内

『美術資料』と合わせて使える動画や画像、ワークシートなどをデジタルコンテンツとして、webサイト「美術資料どっとこむ」で提供。
制作動画や作品画像のほか、知識コンテンツなど、生徒の興味関心を引き出し、学びを深めることができます。また先生の教材準備の負担軽減にもご活用ください。

 bijutsushiryo.com
美術資料 どっとこむ



中学美術 B301 相談室 vol.3

日文 教授用資料

令和3年（2021年）4月1日発行

編集・発行人 佐々木秀樹

発行所 日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL: 06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33554

日本文教出版 株式会社

<https://www.nichibun-g.co.jp/>

大 阪 本 社	〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5 TEL: 06-6692-1261 FAX: 06-6606-5171
東 京 本 社	〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16 TEL: 03-3389-4611 FAX: 03-3389-4618
九 州 支 社	〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14 TEL: 092-531-7696 FAX: 092-521-3938
東 海 支 社	〒461-0004 名古屋市東区葵1-13-18・F・B TEL: 052-979-7260 FAX: 052-979-7261
北海道出張所	〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1 TEL: 011-764-1201 FAX: 011-764-0690

日文 教授用資料

中学美術

B301相談室

Q7
平面構成

Q8
鑑賞

Q9
新しい学習指導要領

Vol.3
花輪 大輔



本資料は、一般社団法人教科書協会
「教科書発行者行動規範」に則り、
配布を許可されているものです。

日文の実践事例、教科情報
詳しくはWebへ！

日文

検索



※ 本冊子掲載 QR コードのリンク先コンテンツは予告なく変更または削除する場合があります。
※ QR コードは、株式会社デンソーウェブの登録商標です。

未来をになう子どもたちへ
日本文教出版



07 「平面構成」はどのように扱っ たらいいですか？

B 先生：「構成美の秩序」ってありますよね？

A 先生：リズムとかリピーテーション、アクセント、セパレーションとかだね？

B 先生：それって、どうやって授業で扱うのが正解なんですか？

花 輪：どうしてそんなこと聞くの？

B 先生：中学時代のデザインの授業で、何種類も何種類も描かされた記憶があつて……。

花 輪：造形原理の修行をしたんだね。
学習指導要領では単なる演習にならないように書かれているんだけどね。

B 先生：「訓練」とか「修行」にしないために、実際の授業ではどう扱うべきですか？

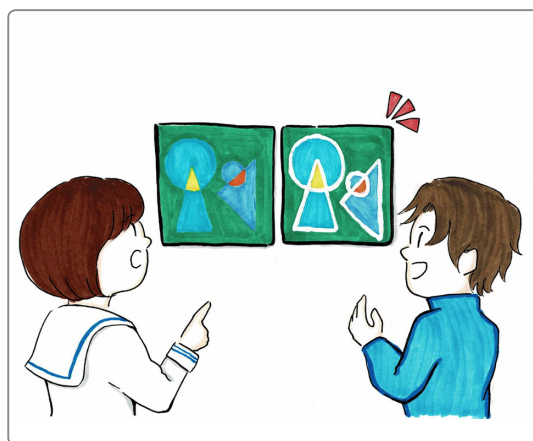
花 輪：その活動の中で、どんな「自己内対話」があったらいいと思う？

A 先生：「どんな工夫をしようかな」とかですかね？

花 輪：それって表現活動のみの場合じゃないかな？

B 先生：アッ、そうか！鑑賞の活動と〔共通事項〕の指導も関連させられますよね。

花 輪：誤解を恐れずに言えば、絵画の構図だって構成なわけだし、指導者としては「実感を伴う理解」を考えたいね。では、平面構成の問題点について考えてみようか。



ちょっと考えよう

生徒作品の展覧会等で、平面構成作品をよく見かけます。「デザイン」の授業で扱われていることが多いように思いますが、ポスターカラーを用いた平面構成作品でも「絵」として捉えた方がよいものや学習指導要領に示された指導事項を満たしていないものも少なくありません。こういったことは中学校美術が抱える大きな問題の一つです。

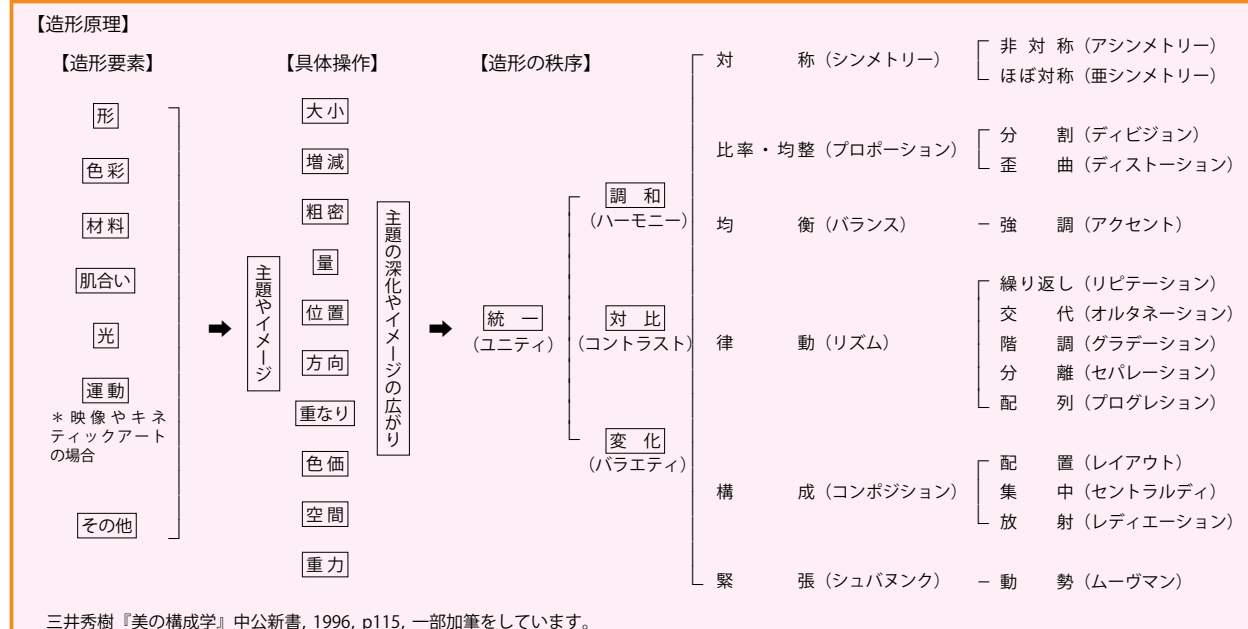


1. 「自己内対話」を想像してみよう

平面構成に限ったことではありませんが、生徒が主題生成や主題実現に向かう場面での「自己内対話」の想定が、資質・能力の発揮を支える授業設計の鍵です。

それが形や色彩、或いは描画材の扱いなどに偏ったものであるならば、単なる技法習得が目的化した授業ということになります。「主題」と「創造的な技能」とを行ったり来たりする中で生ずる「自己内対話」は、思考の橋渡しとしての「言語活動」の一つです。

見栄えもするし生徒も喜ぶと思いますが、芸能人の「肖像画」の色面・明度分割などで、どのような「自己内対話」が起こりうるのでしょうか。特に、輪郭線や分割線を教師が提供しているなら、明清色や暗清色などの色彩感覚の訓練のための「塗り絵」と考えることが妥当です。



2. そもそも「構成」とは？

前掲の問題点は、指導者が平面構成をデザインのための練習として狭義に捉えていることが要因の一つです。

「構成」は、幾何形体を並べることで文様を描くことでもありません。私たちの日常生活にある形態や色彩を造形的な視点で捉え、写実表現とは一線を画した目で視覚の法則や原理を見いだしたり、美術表現や鑑賞のコツを掴んだりしながら、造形感覚を豊かにすることが目的とされています。

上の図は、造形要素やその具体操作と造形の秩序の関係をまとめたものです。図の右側にある造形の秩序は、主題を効果的に表すための可能性として、生徒自身が選んだり、自身の参考作品の特徴を分析する視点として活用することや気付くことに意味があると感じます。

これらは、デザインの中で活かされるだけではありません。生徒個人の「感情などの心象」を主題として扱う平面構成の実践をよく見かけますが、それらはデザインではなく、「絵や彫刻」として扱うことが妥当です。



3. 指導事項としての要件は？

今回の学習指導要領改訂の大きな変更点の一つは、「デザインや工芸など表現する活動」における主題の扱いが明確にされたことです。「構成や装飾の目的や条件などを基に、対象の特徴や用いる場面などから主題を生み出す」ことが指導事項として示されています。主題とは「表したいこと」なのですから、○ ○のための「構成」とならない限りは、指導事項の要件を満たしていないと理解することが妥当です。

特にデザインの学習では、目的や条件に対して、A案とB案のどちらが相応しいかなどを、造形原理や他者が受ける印象などの視点で検討する活動を取り入れたいものです。

そうして、自らの表現の推敲を重ねることがデザインプロセスを体験的に理解することにつながります。

その際、ポスターカラーを扱う必要があるか、色紙等で代替が可能か、コンピュータを用いることは可能かなど他、対話への必要感のためのグループ編成などの検討をしたいものです。



「鑑賞」の授業は何を大切にすればいいですか？

A 先生：いつかは覚えてないんですけど、作品解説を読んだから鑑賞をするのは良くないみたいなのをいわれた記憶があるんですけど……？

花 輪：よくないとはまでは言ってないんだけど……。

B 先生：でも、私も記憶にあります。

A 先生：事前の情報があった方が、詳しく分かるんじゃないですか？

花 輪：そりゃあ、その方が詳しく分かるんじゃないかな？

作品解説を読んでそれが本当なのか確かめるような見方が悪いと言った訳じゃないんだ。今も、美術館に行くと、そういう見方をしている人は少なくないし、……でも、さっき「分かる」って言ってたよね？

A 先生：ええ、言いましたけど？

B 先生：……。アッ！そういうことですね。

花 輪：気がついたかな？

その見方はね、芸術を「知る」ための見方であって、芸術を「感じる」ための見方じゃないんだ。

例えば絵画作品には、それを描いた画家の生い立ちだったり、生き方だったり反映されたりするよね。でも、見て感じる前にそれを生徒たちに言うと、見方・感じ方・考え方を狭めてしまう危険性もあるんだよ。

B 先生：……鑑賞した後に、その画家について「もっと詳しく知りたい」とか「他の作品も見たい」となった方が素敵ですね。

花 輪：じゃあ、もう少し鑑賞の学習について深く考えてみようか。



1. そもそも「鑑賞」って？

大学生にこれまでの美術鑑賞の経験を問うと「美術番組のVTRを見て感想を書いた」という回答が少なくありません。これは美術の経験ではなく国語の経験と考えることが妥当であり、VTRの視聴と感想の記入で1単位時間が消費されるなら、それは授業ではなくて自習です。

私が子どもの頃、鑑賞の授業を受けた記憶もありませんし、「鑑賞の授業」といわれても、ピンと来ない先生も少なくないかも知れません。しかし、近年では鑑賞教育の充実が求められるとともに、多くの実践事例の報告や様々な鑑賞方法が提案されています。

ここではまず、美術鑑賞の大きな意味が体験であることを確認したいと思います。美術作品は、作家の感動や主題、さらにはそれらの実現に向けた表現技法を選択して生み出されたものです。そうして作品が生み出される芸術活動の過程を、生徒個人の経験や造形感覚を駆使して主体的に読み解くことで、生徒個人の中に個性的な意味が生成されたり、価値が創造されたりと言えます。このことは「絵や彫刻」だけでなく「デザインや工芸」でも同様であり、発想や構想と鑑賞の学習を貫く生徒の「見方・感じ方・考え方」の育成につながるものです。

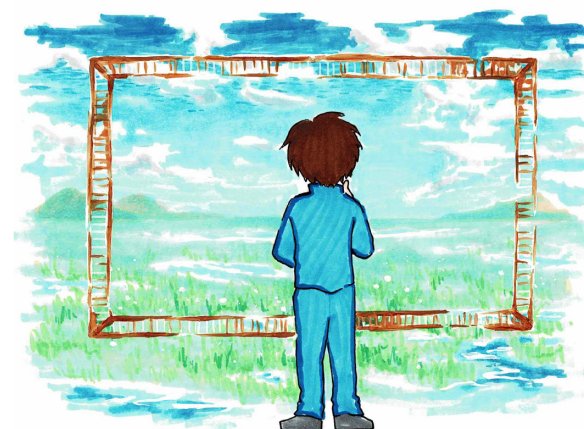


2. 認知的な働きかけの罫

誰もが、美しい夕日や広大な景色に感動した経験があるのではないのでしょうか。それを安定した姿にしたいと願うとき、芸術の萌芽があると言われます。現代であればSNSへの発信を通じて大勢の人とそれを共有するといったことも少なくないように感じます。

美しい夕日と出会って感動しているときは、主観と客観が一つになっています。「茜色に染まった空が綺麗」などということを感じる前の状態です。その段階を飛ばして「何が描かれているか」、「それが何を意味しているか」と問うと、生徒は直ちに作品を客観的に捉えてしまいます。つまり、見て感じる前に分析的な見方・感じ方・考え方で鑑賞の活動を始めてしまいます。

見て感じたことを言葉にしながら、集団で互いのイメージを対話で紡いでいく鑑賞方法は実に魅力的です。風景画であれば気温や太陽の日差し、頬に当たる風を感じてみたり、人物画であれば描かれた人と話してみたりするなど、画面の中に入り込んで、生徒の主観と客観が一つになる段階を大切にしながら、生徒の「追体験」を支えたいものです。



3. 鑑賞の経験

鑑賞の経験の浅い人は年齢に関係なく、作品を好みで捉えたり、記憶や想像をベースに次々に話を紡いだりする、作品をじっくり見ようとせず、自分の記憶や経験に連想が飛躍したりする特徴があるようです。

ここで私たちが着目すべきは、この段階が未経験であれば次の段階には進めないのだとすると、積極的に授業で扱う必要があるということです。見たことや感じたこと、連想したこと、考えたことなどを語り合いながら、お互いの「気付き」を自由に紡いでいく鑑賞の経験を保障したいものです。この経験は、美術や芸術を「感じるもの」、或いは「楽しむもの」として捉えることにつながっていきます。



4. 「見る」ことの意味

みなさんはスーパーマーケットで「林檎」を見るとき新鮮かどうか、価格相応かなど、消費者の目で見ると感じます。しかし、「林檎」を描こうとするとき、或いは鑑賞するときには、色合いや調和の美しさを捉えようとする目で見ると感じます。そのような「目」や美しさを捉えようとする「心」は水やりを怠ると枯れてしまうと言われます。

私が中学生の頃、歴史の授業で、縄文時代と弥生時代の掛け図を並べた発見学習に取り組んだ記憶があります。美術鑑賞とは何が異なるのでしょうか。ここに、美術鑑賞の充実を考えるヒントがありそうです。



新学習指導要領への準備はど

09 うしたらいいですか？

A 先生：4月から新しい学習指導要領が全面実施なんですけど、準備ってどうすればいいですか？

B 先生：えっ？ まだやってないの？

A 先生：何もやってないわけじゃないけどさ……。

花 輪：そのための移行措置期間だったわけだし、年計の整備とかが冬休み中の宿題になってる学校も多いと思うけどね。

A 先生：一応、自分なりに考えてるんですけど、自信がないというか…、それでいいかどうかが不安なんですけど…。

B 先生：その気持ち、分かる！

花 輪：なるほどね。前回の改訂と大きく変わるの、目標と評価の観点の組み方、あとは「デザイン・工芸」の主題の位置づけかなあ。それ以外は、前回改訂をしっかりと理解していれば、大きな問題は起きないと思うよ。

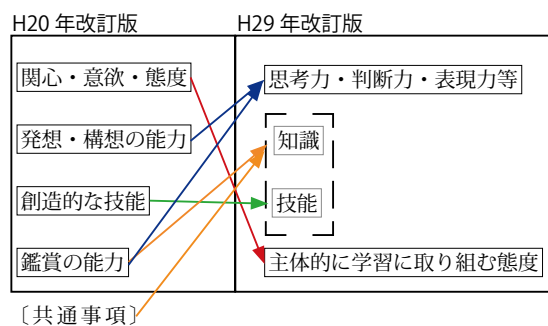
B 先生：それは分かるんですけど、妥当性が…。

花 輪：気持ちは分かるけど、先生が自信を持ってないと生徒たちに伝わっちゃうよ？

A 先生：ですよー。

花 輪：だったら、簡易的なチェックリストを作るから、確認をしてみようか。

今回整理された資質・能力



1.	新学習指導要領が求める「指導と評価の一本化」について理解している
----	----------------------------------

- ☐ 本ページ左下の目標や評価の観点の組み替えや、発想や構想と創造的な技能、鑑賞の能力が相互に働くことについて理解している。
- ☐ 各題材の指導計画において、それぞれの単位時間に主として発揮を期待する資質・能力を明確にすることを理解している。
- ☐ 「主体的に学習に取り組む態度は」①粘り強い取組を行おうとする側面と、②自己の学習を調整しようとする側面から判断すること（BBA や CCA は相応しくないこと）を理解している。
- ☐ 評価の目的は評定ではなく、生徒一人一人の学習の成立を促すためのものであることを一層重視し、生徒とそれを共有するための方策を実行可能な範囲で考えている。



2.	各領域に示された指導事項を理解している
----	---------------------

- ☐ 1、2・3年生の題材配当計画において、それぞれ絵（描く）と彫刻（つくる）、デザイン（描く）と工芸（つくる）、鑑賞の5つの分野の題材（活動）が、バランス良く配当されている。
- ☐ デザイン・工芸に関しては、構成・装飾の目的や条件、伝える目的や条件、使う目的や条件から主題を生み出す題材がバランス良く配当されている。



3.	指導内容や指導計画の妥当性を検討している
----	----------------------

- ☐ 表現形式や技法などの指導に当たっては、教師の価値観による一方的な指導や、特定の表現形式や表現手段、技法、材料の画一的な教え込みにならないように留意している。
- ☐ 生徒一人一人の希望や考えを大切にし、生徒個人のよさの発揮や資質能力を高めるために、主題やその意図に応じた表現技法を選んだり、それを体験的に身に付けたりするような、創造的技能の発揮の機会を適宜設けている。
- ☐ 見る力や感じ取る力、考える力、描く力などを育成するためのスケッチを適宜位置付けている。
- ☐ 「絵や彫刻」などに表現する活動、「デザインや工芸」などに表現する活動の特性を理解し、互いのよさや個性などを認め尊重し合うような場면을適宜設定している。
- ☐ 表現の材料や題材などについては、地域の身近なものや伝統的なものを適宜取り上げている。
- ☐ 自己の夢や目標などから主題を生み出し、自己の肯定的認識を高め、未来への憧れなどを思い描くなど、自己実現を目指すような題材の配当がある。
- ☐ 日本及び諸外国の作品の独特な表現形式、漫画やイラストレーション、図などの多様な表現方法を適宜位置付けたり、活用したりするようにしている。
- ☐ 美術の表現の可能性を広げる、写真・ビデオ・コンピュータ等の映像メディアの積極的に活用している。

現段階で考えられる事項をチェックリスト化しましたが、いかがだったでしょうか。私の個人的な印象ですが、前回の改訂の時は、〔共通事項〕の新設や、言語活動の導入もあり、教師向けの資料が豊富だったように思います。しかし、今回の改訂では自ら積極的に資料にアクセスしなければ、確かな情報を得られないような印象です。



4.	生徒の造形的な視点を豊かにするために、表現及び鑑賞の全てに共通事項を位置付けている
----	---

- ☐ 色彩の色味や明るさ、鮮やかさを捉える場面を設定している。
- ☐ 材料の性質や質感を捉える場面を設定している。
- ☐ 形や色彩、材料、光などから感じる優しさや楽しさ、寂しさなどを捉える場面を設定している。
- ☐ 形や色彩などの組合せによる構成の美しさを捉える場面を設定している。
- ☐ 余白や空間の効果、立体感や遠近感、量感や動勢などを捉える場面を設定している。
- ☐ 造形的な特徴などを基に、見立てたり、心情などと関連付けたりして全体のイメージで捉える場面を設定している。
- ☐ 造形的な特徴などを基に、作風や様式などの文化的な視点で捉える場面を設定している。

※（共通事項）は感覚的な体験で終始したり、それ自体を単独で扱ったりするものではありません。Check1で触れたとおり、表現や鑑賞の活動に適宜位置付け、本教科の「知識」として実感的な理解を促す必要があります。用語の暗記などに終始することも避けたいものです。

※ 題材の特質によっては、位置付けが困難な項目があるかも知れませんが、適宜位置付ける必要があります。造形要素や具体操作についてはQ7の表を参考にしてください。

日本文教出版のHPでは年間指導計画案や題材内容資料（評価規準例）をはじめ、「中美（チュービ）：中学校美術の先生応援サイト」など、教師向けの情報が充実しています。また、国立教育政策研究所教育課程研究センターのHPに「指導と評価の一体化のための参考資料」がありますので、目を通してくと良いと思います。